

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創設 118 年目を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として併設された本校は、6 年一貫した教育を通して生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）を育成することをミッションとし、未来に向けた挑戦を始める。

＜中高一貫校としてめざす学校像＞

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

＜中高一貫教育を通して育みたい力＞

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 各教科・科目において、中高一貫して学習指導要領の目標を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。
- イ 「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。
- ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。
- エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度（平成29年度67%）70%以上をめざし、3年後に75%をめざす。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) SSH となり、中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、進学実績の向上を図る。

- ア SSH となり「総合的な学習の時間」では、「地域と連携した探究貢献活動」を実施するとともに海外との交流を拡充することで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成する。
- イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。
 - ・現役での国公立大学進学者の合格者数（平成29年度現役合格者数52名）について60名以上をめざし、今後段階的に学級減になるが、3年後には5.0人に1人の合格をめざす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。

※（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成29年度82%）80%以上を維持し、3年後に90%をめざす。また、（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度（平成29年度79%）80%以上をめざし、3年後に85%をめざす。

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

- ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する
- イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。
- ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※・（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度（平成29年度93%）90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

- ア 国際交流（台湾、オーストラリア、タイ等）の充実
- イ ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流の継続
 - ・グローバル人材の育成に向けた海外研修の実施

※（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力を身に付けた」（平成 29 年度 86%）90%以上をめざし、その後も 90%以上を維持する。

4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。

- ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る
- イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める
- ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度（平成29年度83%）85%以上をめざし、その後は90%をめざす。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

- ア コミュニティースクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進
- イ 安全・安心な学校づくり
- ウ 地域貢献を推進

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成 29 年度 91%）90%以上をめざし、その後も 90%以上を維持する。また（保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成 29 年度 96%）90%以上をめざし、その後も 90%以上を維持する。

5 働き方改革の推進

(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。

- ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底
- イ ルーティン化していた校務の見直しによる業務の軽減化

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>I 生徒・保護者 () 内は昨年度 教員分も同様</p> <p>1 学校満足度 「ぜんぶ全力」を合言葉に、学習、部活動、学校行事等に全力で取り組む姿勢を育むことで、富田林高校で「学ぶ喜び」を味わわせることができるよう取り組んだ。</p> <p>(1) 生徒 「富田林高校へ進学してよかった」・・・90.9% (90.6)</p> <p>(2) 保護者 「富田林高校で学ばせることができてよかった」 94.9% (95.7) ※生徒の満足度はこの9年間で最高値である。</p> <p>2 確かな学力の育成 今求められている「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点での授業改善)」を実現する授業づくりに向けて、1年間、校内全体で組織的に授業研究に取り組んできた。</p> <p>(1) 生徒 「授業中は集中して先生の話聞いている」・・・88.9% (87.0) 「教員による ICT 機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」・・・90.0% (86.2) 「家庭学習を毎日 90 分以上している」・・・70.1% (77.6) 「内容を深く考えさせる授業が多い」・・・76.5% (68.5) ※上からの2項目はこの9年間での最高値。また、ICT 機器の項目は、この項目が付け加えられた5年間での最高値。</p> <p>(2) 保護者 「学校の学習活動への取組に満足している」・・・87.1% (84.6) ※保護者の満足度はこの9年間で最高値である。</p> <p>3 進路実現 タブレット端末を使った進路情報の「見える化」の徹底を図ることをはじめ、選択科目においても個々の進路実現に向けた科目編成をとるなど、一人一人の確実な進路実現に向けた取組を展開している。</p> <p>(1) 生徒 「進路希望達成に適切な選択科目が多い」・・・82.3% (80.0) ※この項目はこの9年間での最高値。 「学校だけで、進路達成に必要な学力が身につく」・・・57.6% (56.4) 「理解度に応じて補講や講習が行われている」・・・76.3% (75.6) 「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」・・・81.5% (82.3)</p> <p>(2) 保護者 「学校の進路指導への取組に満足している」・・・81.5% (78.5) ※保護者の満足度はこの9年間で最高値。学力の向上とともに、一人一人の進路実現に向け、よりきめ細かな進路指導を行う。</p> <p>4 豊かな感性 本校の学校教育目標である「グローバルな視野とコミュニケーション力」「論理的思考力と課題発見解決能力」の育成及び「社会貢献意識と地域愛」の醸成に関わる項目である。今年度は国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力が身に付いたかを具体的に問うた。</p> <p>(1) 生徒 「学校行事に参加するのは楽しい」・・・95.3% (92.6) ※この項目はこの9年間での最高値。 「学校の人権教育は適切である」・・・88.3% (86.1) 「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・・88.1% (86.4)</p> <p>(2) 保護者 「学校の人権教育への取組に満足している」・・・82.5% (80.7) 「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・・95.1% (92.0) 「学校の学校行事への取組に満足している」・・・95.1% (95.1) ※*保護者の学校行事への満足度は昨年度と同値で、過去9年間での最高値。また今後もグローバルな視野とコミュニケーション力を養うグローバル教育に一層力を入れる。</p> <p>5 保護者連携 ホームページを中高一貫校用に更新したり、日々ブログやメルマガ</p>	<p>第1回(5月17日) ○H30年度学校経営計画について ・先生がインプットした事柄を生徒たちがアウトプットする機会がたくさんあるようだ。生徒たちの学びを見たい。 ・学校側のビジョンや熱意は伝わってくるが、現実の子ども像が見えにくい。「子どもたちが何を求めているか」という視点を取り入れてPDCAを行ってほしい。生徒たちが自己発信できる場を設けてはどうか。</p> <p>第2回(11月26日) ○「地域連携 社会に開かれた教育課程」(生徒・協議会委員等による熟議*)について *【熟議のテーマ】(富田林中学・高校を起点として) 私たちが地域にできること ・たくさんの生徒が集まって大人も交えて熟議し、いい案を出してくれた。 ・生徒たちのきらきらした考え、意見を聞くことができて、貴重な機会となった。 ・生徒たちが意見を述べるだけでなく、熟議したことを咀嚼して発表する力を持っていることに感銘を受けた。</p> <p>第3回(2月26日) ○今年度の学校による取組みの自己評価を踏まえた学校関係者評価 ・数字を通していつも資料を拝見するがパーセントだけではなく回収率なども載せてほしい。 ←生徒 96.7% 保護者 78.9% 教員 88.7 ・自由記述はあるのか。 ←あまり書かれていない。しかし、今年度は、台風の件で判断が遅れたことや休校にできなかったことなど、厳しいご意見いただいた。)</p> <p>○平成31年度学校経営計画について ・先日、地域学校協働本部(学びと育ち南河内ネットワーク)の支援により、どのようなことができるかの会議を行った。富田林高校の同窓会にもどのようなお金が使えるのか報告している。そこで挙げたものとして、国際交流関係でかかる高額なお金に対して、その事業における成果がどのようなものかしっかりと論議したい。高い費用をかけて行くからには、成果を求められる。それを発表という形で外部に発信したり、授業の中で取り込んだりして生かしていく必要がある。 ←地域フォーラムなどで発表を行うという形になっている。保護者からも、海外研修のような活動の成果についてフィードバックしてもらいたいという声も聞かせていただいている。</p> <p>・学校運営についての意識が高いのは伝わってきたが、実際の教員の負担はどのようなものか。 ・このような取組みが生徒にどのように影響しているのか、生徒のことをしっかりと観察することが大切である。個々の取組みの関係を結ぶ、点と点をつないでいくことも必要だろう。そして、学校に対してどのような支援が必要か、運営協議会のような場で検討することも求められる。5本の柱を中心とした方針を挙げてもらい、これにて異論がなければ、この路線でいいと思う。今後もていねいに見ていくことは必要だ。 (委員全員が承認)</p>

などで情報を積極的に提供するなど、保護者との緊密な連携を図ろうとしている。

(1) 生徒

「学校からの連絡を保護者に伝えている」・・・ 81.4% (79.5)

※この項目はこの9年間での最高値。

「学校は HP・ブログやメールマガジンなどで情報をよく流している」・・・ 70.8% (73.9)

(2) 保護者

「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」・・・ 84.4% (84.8)

「学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けている」 88.5% (87.5)

「保護者説明会や学級懇談会の回数は適当である」・・・93.5% (92.6)

「学校は HP・ブログやメールマガジンなどで情報をよく流している」・・・ 85.5% (83.3)

「学校からの連絡は子どもを通じて把握している」・・・67.4% (66.6)

※「保護者説明会や学級懇談会の回数は適当である」が過去9年間で最高値になるなど、保護者との連携（情報発信）は概ね達成。

II 教員

1 教育活動

「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を意識した授業をしている」・・・ 83.0% (65.5)

※この項目を追加した過去4年間で最高値。

「教員の間で、授業方法等を検討する機会が多い」・・・88.7% (83.6)

※過去9年間で最高値

「ICT 機器を使った授業を行ったことがある」・・・79.2% (90.9)

※「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについては校内全体で一層の授業改善に努める。

2 学校経営

「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」・・・98.1% (98.2)

「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」96.2% (92.7)

※校長の指導力は十分に発揮されている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 各教科において中高一貫して学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。</p> <p>エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p>	<p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位、）により、学校生活をデザインする。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとにアクティブ・ラーニングの取組みを検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の中高合同の研究授業を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。 ・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 ・ICT環境の一層の充実を図るとともに、全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。 <p>ウ・英語のすべての科目でICT機器を活用した4技能統合型の授業を展開し、実践的な英語運用能力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生では毎朝10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、リスニング・スピーキング能力の向上を図るとともに、毎日実施できるよう教室の環境を整備する。 ・2年生では毎朝10分間を、数学（週1～2回）と英語（週3～4回）の学習に充てる。 ・高校1・2年生全員に英語能力試験（外部試験）を実施する。 <p>エ 家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p>	<p>ア （生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度（平成29年度67%）70%以上をめざす</p> <p>イ・（教員向け）学校教育自己診断「「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）を意識して授業をしている。」（平成29年度66%）70%以上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科研修期間を設け、すべての教科で研究授業が実施できたか。また、年に2回の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。 ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。 ・ICT機器を効果的に活用した授業ができたか。 （教員向け）学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」（平成29年度91%）90%以上を維持する。 （生徒向け）学校教育自己診断「教員によるICT機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」（平成29年度86%）85%以上を維持する。 <p>ウ・1・2学年全員が英語能力試験（GTEC）を受験し、その技能別結果を「見える化システム」に入れ、全生徒が活用できたか。</p> <p>エ （生徒向け）学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均（平成29年度70%）75%をめざす。</p>	<p>ア（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度が73.8%となり、目標を達成した。（○）</p> <p>イ・（教員向け）学校教育自己診断「「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）を意識して授業をしている。」が83.0%となり、目標を大きく上回った（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科横断型「授業改革推進チーム」が中心となり、公開授業のルーティン化、年間2回の研究授業（中学校「国語」、高校「現代文」、及び全教科対象の授業公開週間を設定。校内全体での授業研究は進んだ。（○） ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員で結果を分析。それを踏まえて授業改善シートを作成。自身の授業改善に活用した。（○） <p>・（教員向け）学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」は79.2%に下降。（△）一方で、（生徒向け）学校教育自己診断「教員によるICT機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」は90.0%と目標を上回る。（○）</p> <p>ウ・1・2学年全員が英語能力試験（GTEC）を受験し、その技能別結果を「見える化システム」に入れ、全生徒が活用できた。（○）</p> <p>エ（生徒向け）学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均が70.1%と目標には及ばなかった。（△）</p>

府立富田林高等学校

<p>2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取り組み</p>	<p>(1) SSHとなり、中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、高校では6年一貫教育の結果としての進学実績の向上を図る。</p> <p>ア SSHとなり、「総合的な学習の時間」では、「地域と連携した探究貢献活動」を実施するとともに海外との交流を拡充することで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成する。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役での国公立大学進学者の合格者数（平成28年度現役合格者数67名。3年生5.6人に1人が合格）を3年後に5.0人に1人の合格をめざす。 	<p>ア・本校のSSH（開発型）の目標（課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSHとして、「総合的な学習の時間」において、行政や大学等との連携を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には学年での発表や地域フォーラムを開催する。 <p>イ・3年生は基礎基本的な知識の定着を図るため、毎朝10分間小テスト（英・数・国）を実施するとともに、実施に向けて教室の環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を作成し、全生徒が活用し、将来の目標を早期に発見させる。 ・生徒・保護者に適切な進学説明会を継続して実施する。 ・進学講習を充実する。 	<p>ア・SSHとして本校の到達目標を具現化するプログラムを開発できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を巻き込んだ地域フォーラムが開催できたか。 <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率100%をめざす。</p> <p>（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成29年度82%）80%以上を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度（平成29年度79%）80%以上をめざす。 ・2学年後半から計画的に進学講習が実施できたか。（国・数・英） 	<p>ア・本校の学校教育目標を具現化するSSHのプログラムを開発することができた。またその取り組みの成果として、大阪学生科学賞をはじめとする多くの賞を受賞した。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地位連携を一層強化した「地域フォーラム」を3月2日に開催した。 <p>イ・「見える化システム」を全生徒が活用できた。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度は82.3%と目標を達成した。（○） ・（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度は81.5%と目標を達成した。（○） ・2年生は夏休み以降計画的に進学講習を行っている。（○）
<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。</p> <p>ア 学校教育目標で設定した<育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。</p> <p>ア・国際交流（台湾、オーストラリア、タイ）の充実を図る。</p> <p>イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流の継続・グローバル人材の育成に向けた海外研修の実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文化祭・体育祭における準備委員会を一層活性化させる。 ② 修学旅行や遠足等校外学習を3年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。 ③ 部活動への参加を奨励する。 <p>イ・これまでの人権研修の実施計画を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、遅刻指導の充実と生活マナーを向上させる。 ・式（入学、卒業、始業・終業など）での標準服着用の指導。 <p>ウ 中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 台湾やタイをはじめとする様々な国の生徒との交流の充実を図る。</p> <p>イ・台湾及びオーストラリアの姉妹校との交流を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校としての修学旅行（中学校・高校）の内容と行先を検討する。 ・アントレプレナーシップ型の課題発見・解決能力及び英語によるプレゼンテーション能力を高める海外研修を実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア・（生徒向け）学校教育自己診断結果における行事満足度（平成29年度93%）90%以上を維持。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率（平成29年度86%）90%をめざす。 <p>イ 時代のニーズに合致した人権研修の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（生徒向け）学校教育自己診断結果における人権教育満足度（平成29年度86%）90%をめざす。 ・（生徒向け）学校教育自己診断結果における校則遵守率（平成29年度96%）90%以上を維持。 <p>ウ （生徒向け）学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度（平成29年度84%）85%以上をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア 多くの生徒が海外の高校生と交流できたか。</p> <p>イ・台湾の姉妹校での学校交流が修学旅行を通して図れたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫した目的で修学旅行の内容と行先を決定できたか。 ・海外研修の参加者への研修後のアンケートで、研修満足度（平成29年度100%）100%を維持。（生徒向け）学校教育自己診断「国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力を身に付けた」（平成29年度86%）90%以上をめざす。 	<p>(1)</p> <p>ア・（生徒向け）学校教育自己診断結果における行事満足度は95.3%と目標をかなり上回った。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は88.0%で、評価指標をわずかに下回った。（△） <p>イ・（生徒向け）学校教育自己診断結果における人権教育満足度は88.3%で、評価指標をわずかに下回った。（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（生徒向け）学校教育自己診断結果における校則遵守率は97.3%と目標を達成した。（○） <p>ウ（生徒向け）学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度は85.9%と目標を達成した。（○）</p> <p>(2)</p> <p>ア 今年度もアメリカや台湾、韓国からの訪問団を受け入れ、各学年が担当して交流を行った。（○）</p> <p>イ・台湾の姉妹校と修学旅行で学校交流を行った。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は中学は台湾へ、高校はベトナムへと修学旅行先を決定した。（○） ・海外研修の参加者への研修後のアンケートで、研修満足度は100%と目標を達成した。（○） ・（生徒向け）学校教育自己診断「国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力を身に付けた」は88.1%で、評価指標をわずかに下回った。（△）

府立富田林高等学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。</p> <p>ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。</p> <p>イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。</p> <p>ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。</p> <p>ア コミュニティースクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>イ 安全・安心な学校づくりに努める。</p> <p>ウ 地域貢献を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中学、高校それぞれの対応する分掌が協働できる会議システムを構築する。</p> <p>・中高一貫教育の観点で再編した分掌（中高一貫創生部）を機能させる中で、人材育成を図る。</p> <p>イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。</p> <p>ウ 中高一貫校としてリニューアルした学校ウェブページから積極的に効果的な情報発信をする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して、より広く保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。</p> <p>・「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて情報収集及び研修を行う。（準備委員会、教職員）</p> <p>イ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。</p> <p>・教育相談係による情報を収集し共有する。</p> <p>ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。</p> <p>・地域住民を巻き込んだ総合学習の成果発表会である地域フォーラムの開催</p> <p>・地域貢献活動の実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能することができたか。</p> <p>・継続的な人材育成が「創生部」の取り組みとしてできたか。</p> <p>イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。</p> <p>ウ 中高一貫校としてふさわしいものにリニューアルした学校web ページから積極的に効果的な情報発信ができたか。</p> <p>（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度（平成29年度83%）85%以上をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会を設置し、より広く保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるようになったか。</p> <p>・（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成29年度91%）90%以上を維持する</p> <p>（保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成29年度96%）90%以上を維持する。</p> <p>イ （生徒向け）学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度（平成29年度58%）60%以上をめざす。</p> <p>ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。</p> <p>・総合学習の成果発表会である地域フォーラムを開催できたか。</p> <p>・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高一貫教育の推進に向けて、中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能させることができた。（○）</p> <p>・授業改善を軸にミドルリーダー育成に向けた取り組みを行うことができた。（○）</p> <p>イ 府外の先進校を中高の教員が訪問し、貴重な情報を得てきた。（○）</p> <p>ウ （保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度は85.5%と目標を達成した。（○）</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会にはPTAをはじめ、地域住民等が委員として参加され、学校運営に向けた意見をいただいている。（○）</p> <p>・（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度は90.9%、（保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度は94.9%と目標を達成した。（○）</p> <p>イ （生徒向け）学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度は64.9%と目標を達成した。（○）</p> <p>ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができた。（○）</p> <p>・総合学習の成果発表会である「地域フォーラム」を3月2日に開催した。</p> <p>・河川清掃などの地域でのボランティア活動を3月3日に行った。</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。</p> <p>ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底</p> <p>イ ルーティン化していた校務の見直しによる業務の軽減化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日の職員朝礼でのアナウンス及び17時以降における退勤の職員間での声掛けを励行する。</p> <p>イ 各種研修などの実施時期や実施時間帯を見直したりこれまでルーティン化していた行事を廃止するなど、校務を見直すことで業務の軽減化を図る</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。</p> <p>イ・校務の見直しを図ったか。</p> <p>ア、イとも、（教員向け）学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度（平成29年度80.0%）85%以上をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 毎週ノー残業デーを朝礼で周知している。（○）</p> <p>イ 中学訪問の廃止など、いくつかの業務軽減を図った。（○）</p> <p>（教員向け）学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度は81.1%で目標には届かなかつた。（△）</p>